



ARCHITREND
Modelio

基本操作編

本書は、Modelioの概要、起動方法から、プラン入力の基本的な操作について解説したテキストです。

1. ARCHITREND Modelioの概要	1
1-1 Modelioの基本的な流れ	1
2. Modelioの起動と画面まわりの確認	2
2-1 Modelioの起動	2
2-2 画面まわりの確認	3
3. データの入力	4
3-1 平面画面の拡大・縮小	4
3-2 部屋の入力	6
3-3 建具の入力	10
4. データの選択と編集	11
4-1 データの選択	11
4-2 データの編集	13
5. 屋根・建具の自動配置	16
6. 立体データの確認	17
6-1 外観の確認	17
6-2 内観の確認	19
7. プランの保存とプログラムの終了	20

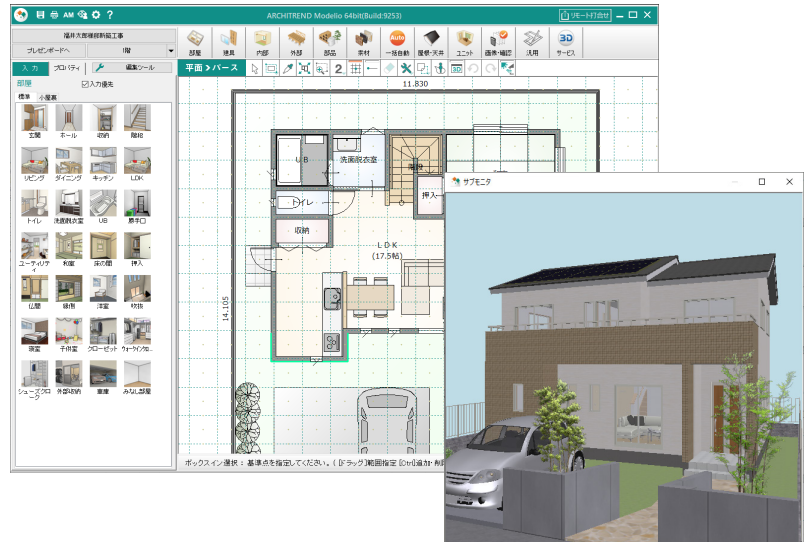
1

ARCHITREND Modelio の概要

ARCHITREND Modelio（以降、Modelio）は、パースを見せながら住宅提案に必要な平面プランを簡単に入力でき、高品質なプレゼン画像、プレゼンボードまでを作成できる住宅営業支援システムです。素早くプランを提出することで、お施主様へのアピールにもつながります。

1-1 Modelioの基本的な流れ

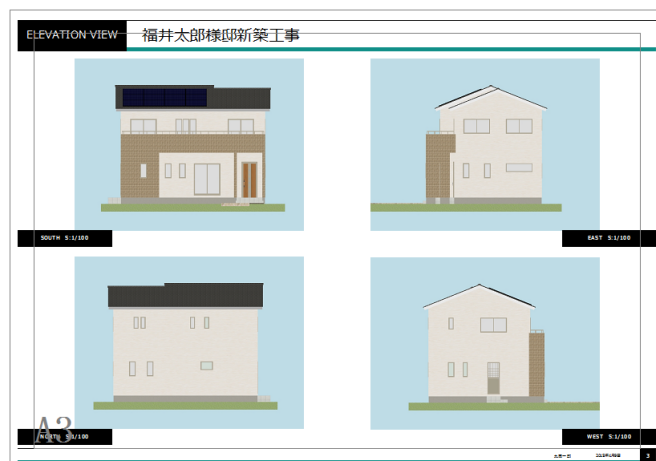
プラン入力



プレゼン画像の作成



プレゼンボードの作成



2

Modelio の起動と画面まわりの確認

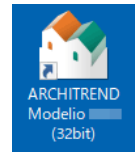
2-1 Modelioの起動

プログラムを起動する

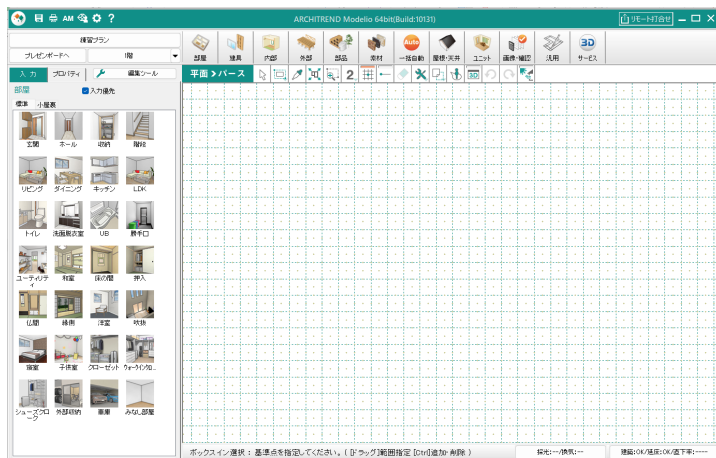
- ① デスクトップのアイコンをダブルクリックします。
- ② データフォルダを確認します。
- ③ 「新規作成」をクリックします。
- ④ ここでは、プラン名を「練習プラン」に変更します。
- ⑤ シリーズを選択します。
ここでは「ナチュラルベーシック」を選択します。
- ⑥ 「完了」をクリックします。
Modelio の画面が表示されます。



Windows OSが32bitの場合は
32bitアイコンが作成されます。

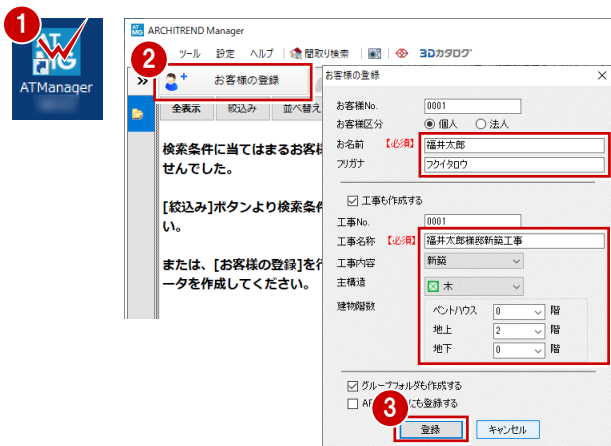


「ATDrive」をクリックすると、物件データや
各ファイルをクラウド上で保管・管理する
ARCHITREND Driveの画面が表示され
ます。⇒ P.22参照



補足 + Manager をお持ちの場合

ARCHITREND Manager（マネージャー）は、ARCHITRENDシリーズのファイル管理ツールです。作成したプランデータはもちろん、WordやExcelなどの書類も一元管理し、マネージャーからデータを直接開くこともできます。マネージャーからModelioデータを作成する場合は、以下のような手順になります。



32bit/64bit
を選択



2-2 画面まわりの確認

入力画面について、各部の名称と機能を確認しましょう。

階変更
上階・下階をクリックして階の変更や、プルダウンメニューで目的の階を選択します。



「モニター表示／非表示」
サブモニタの表示／非表示をおこないません。
(メイン画面がパース表示のときは、サブモニタに平面が表示されます。)



プレゼンボードへ
プレゼンボードの編集画面へ切り替えます。

プラン変更
プランを新規作成、または作成したプランを開きます。

共通ツールバー
平面、パースに共通したコマンドが配置されています。

リモート打ち合わせ
お施主様にリモートでプラン提案を行います。
⇒ 公式ホームページ：「[リモート打ち合せ \(共有\) 編](#)」参照

専用ツールバー
プラン作成から画像の作成・確認までを行うコマンドが配置されています。

2Dツールバー
平面で使用するコマンドが配置されています。

CAD画面
プランを作成する画面です。
ツールバーの「平面／立体の入れ替え」で、平面表示とパース表示を切り替えることができます。

ポップアップメニュー
CAD画面またはサブモニタ上で、マウスの右クリックをすると表示されるメニューです。選択データに関連する機能や編集機能がまとめられています。
(Shiftキー+F10キーでも表示可)



メッセージバー
現在選択されているコマンドについてメッセージが表示されます。

入力パネル
部屋・素材・部品・建具の一覧や外部・内部・汎用などの部材一覧が表示されます。

平面／立体の入れ替え
クリックすると、平面またはパース表示に切り替えます。

3Dツールバー
パースで使用するコマンドが配置されています。

プロパティパネル
選択しているコマンドのプロパティが表示されます。
※ F3キーで入力・プロパティパネルを切り替えることができます。





ARCHITREND Modelio 64bit(Build: 10000)

画面構成要素:

- メニューバー: 目、AM、?、?
- ツールバー: 部屋、建具、内部、外部、部品、素材、一括自動、屋根・天井、ユニット、画像・確認、汎用、サービス
- サブメニュー: 階 (1階), プレゼンボードへ, 入力, プロパティ, 編集ツール
- メインビュー: 平面 > パース
- サブビュー: 部屋 (玄関、ホール、取柄、階段、リビング、ダイニング、キッチン、LDK、トイレ、洗面脱衣室、UB、勝手口、ユーティリティ、和室、床の間、押入、仏間、縁側、洋室、吹抜、寝室、子供室、クローゼット、ウォークイン、シューズクローク、外部収納、車庫、みなし部屋)
- メッセージバー: ボックスイン選択: 基準点を指定してください。([D]ドラッグ範囲指定 [Ctrl]追加 | 採光---/換気--- | 確認:OK/キャンセル:OK/直下:---

3

データの入力

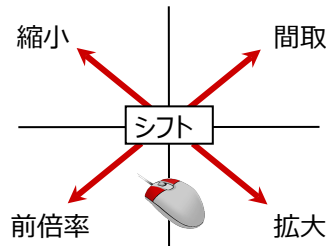
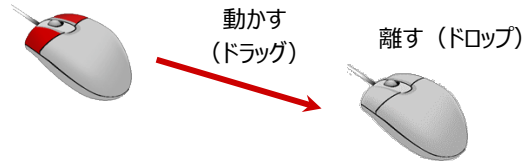
3-1 平面画面の拡大・縮小

Modelioでは画面の拡大・縮小といった操作を素早く行えるように、Jw_cadと同じ「両ボタンドラッグ」を採用しています。

両ボタンドラッグで画面を操作する

両ボタンドラッグとは、マウスの左右ボタンを同時に押したまま、マウスを移動する操作方法です。

左右のボタンを
押したまま



ドラッグ方向	画面操作
右下	拡大
右上	間取
左下	前倍率
左上	縮小
動かさない	シフト (表示移動)

【ドラッグ方向と画面操作の関係】

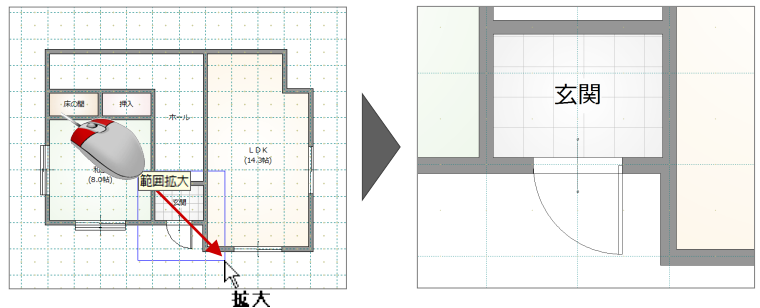
ドラッグ&ドロップとは

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動して目的の場所で離す操作です。部屋の入力や素材の変更、ボードを追加するときなどに使用します。

■ 画面を拡大する

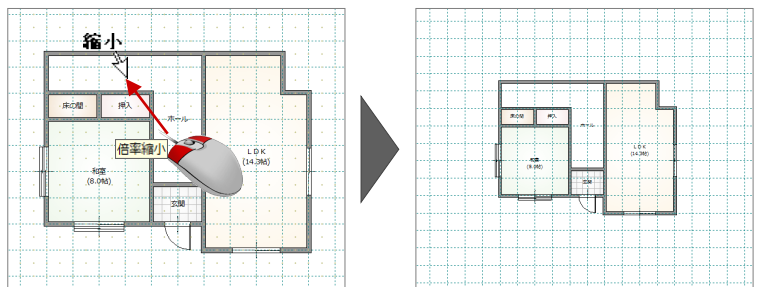
拡大したい範囲の左上でマウスの左右のボタンを同時に押しそのまま右下方向へドラッグすると、指定した範囲が画面いっぱいに表示されます。

ツールバーの 「範囲拡大」で同様の操作ができます。



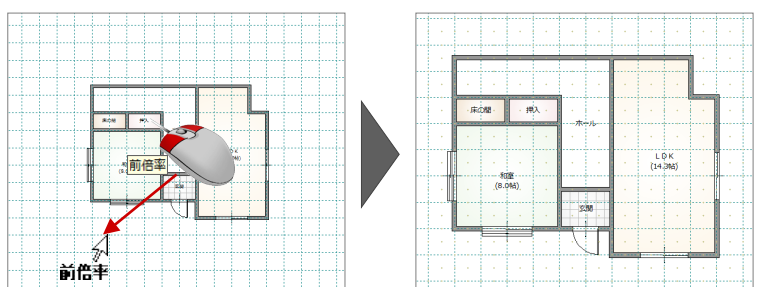
■ 画面を縮小する

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま左上方向へドラッグすると、画面の中心を基準に縮小されます。



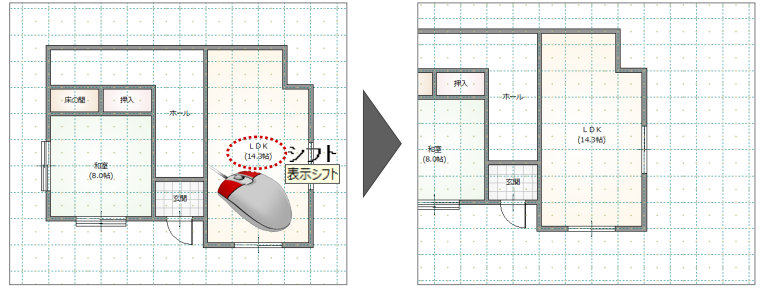
■ 画面を前倍率に戻す

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま左下方向へドラッグすると、1つ前の表示範囲に戻ります。




■ 画面を移動する（シフト）

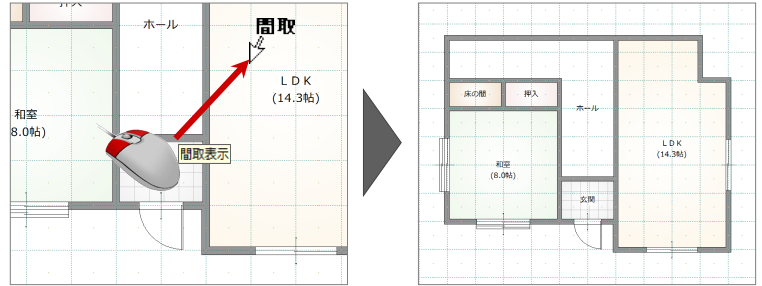
マウスの左右のボタンを同時に押し、動かさずにボタンを離すと、その位置に画面の中心が移動します。



■ 全体を表示する（間取表示）



マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま右上方向へドラッグすると、部屋が入力されているエリアが画面いっぱいに表示されます。

何も選択していない状態でツールバーの  「フィット表示」をクリックしても同様に間取り全体が表示されます。



その他の方法で画面を操作する

両ボタンドラッグのほかに、マウスホイールやキーボードを使って画面を操作できます。

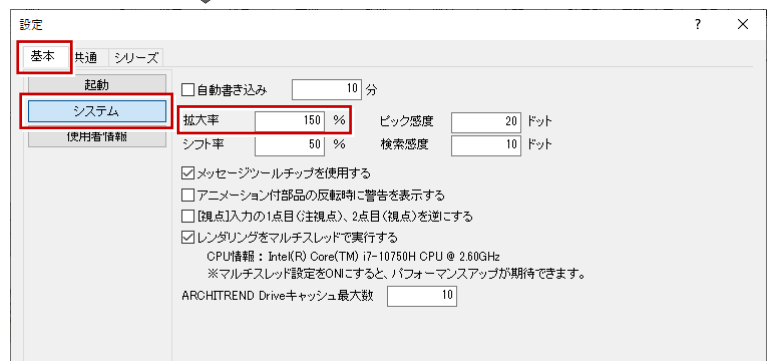
マウスホイールによる画面操作	
拡大・縮小	ホイールを前後に動かすと、画面が拡大・縮小されます。 
表示移動	ホイールボタンを押したままマウスを動かすと、表示画面が移動します。 
キーボードによる画面操作	
拡大・縮小	Page Downキーを押すと、画面の中心を基準に拡大されます。Page Upキーを押すと、画面の中心を基準に縮小されます。
間取表示	Homeキーを押すと、部屋領域が画面いっぱいに表示されます。
表示移動	←・↑・→・↓キーを押すと、指定した方向に表示が移動します。

補足

拡大率を変更するには

平面を拡大・縮小するときの倍率を変更することができます。

共通ツールバーの「初期設定」をクリックして、「基本」タブの「システム」にある「拡大率」で設定します。



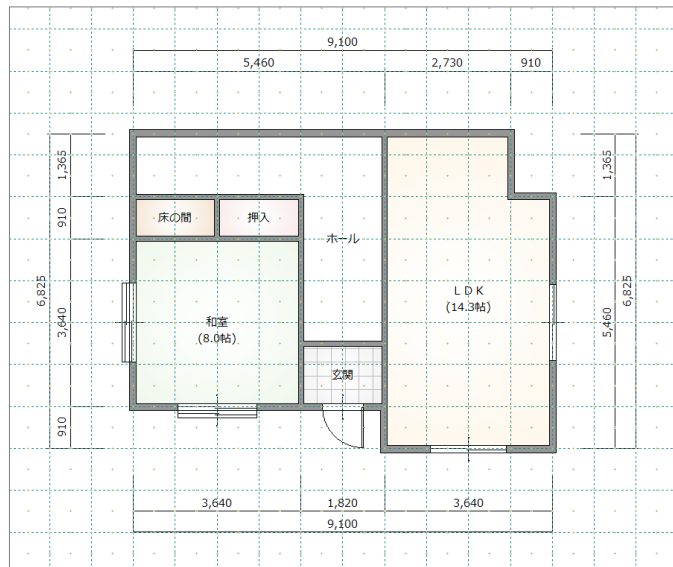
3-2 部屋の入力

間取りは「部屋」を使用して入力します。

ここでは、練習用の間取りを使って間取り入力の3つの方法を紹介します。

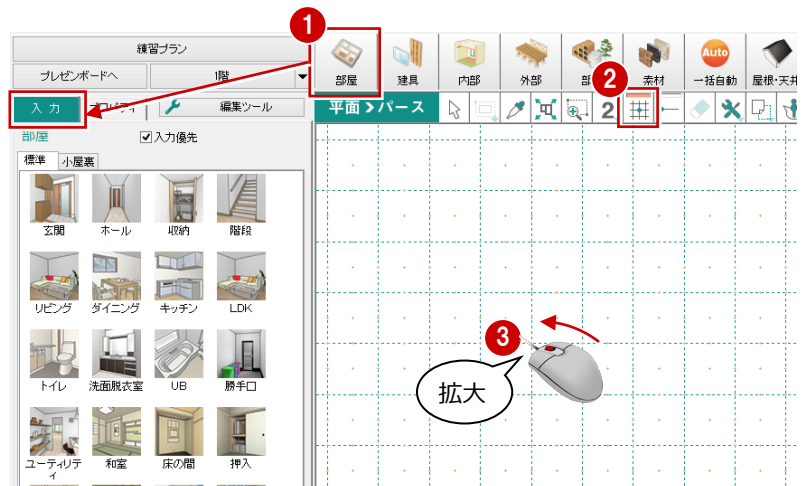
また、クイック建具を使って外部に建具を入力してみましょう。

※ 右図では、解説のため部屋寸法を入力しています。

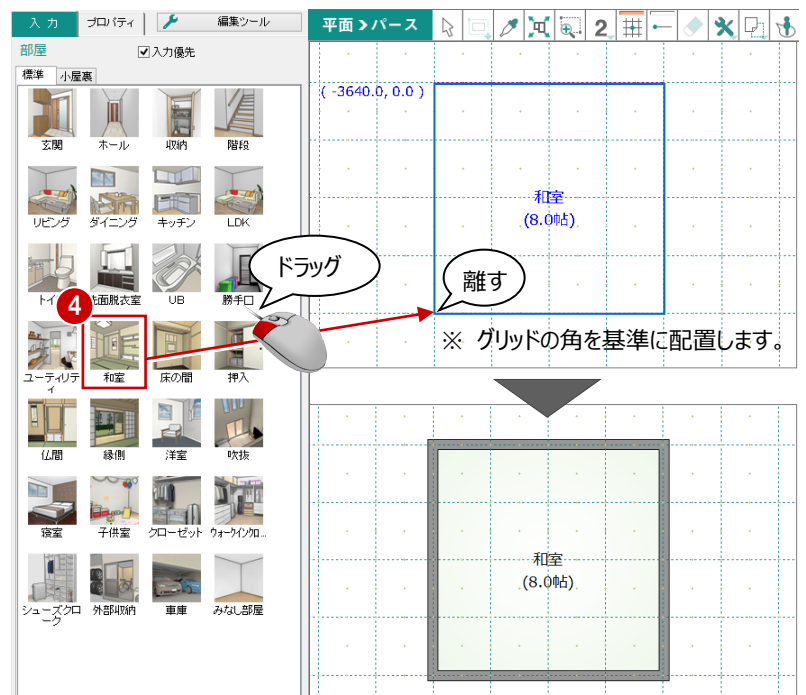


ドラッグ&ドロップで部屋を入力する

- ① 「部屋」をクリックして、部屋の入力パネルを開きます。
- ② ピックモードのグリッドがONであることを確認します。
⇒ ピックモードについては、P. 7 参照
- ③ CAD 画面を拡大します。
マウスホイールを奥へ回して画面を拡大します
(手前に回すと縮小します)。

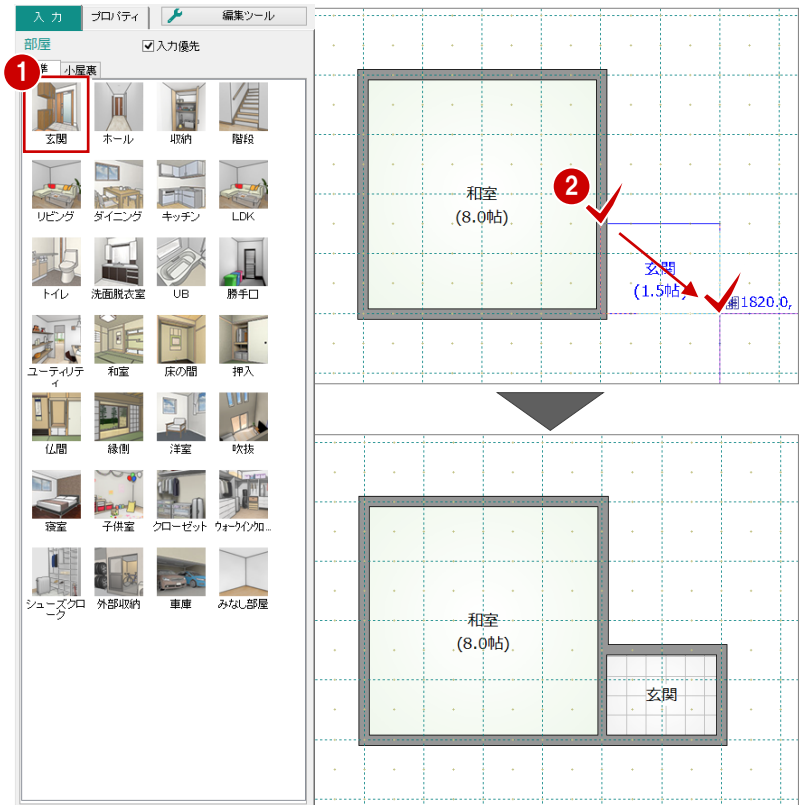


- ④ 「和室」をマウスの左ボタンを押しながらCAD画面へドラッグして離します。
和室が入力されます。



矩形の部屋を入力する

- 1 入力したい部屋（ここでは「玄関」）を選びます。
- 2 矩形の始点と対角点をクリックします。



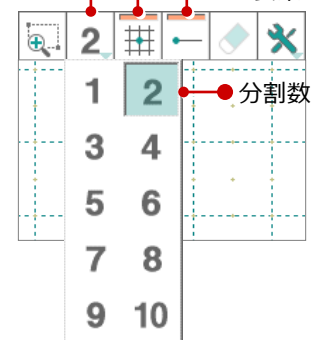
グリッドとピックモードについて

平面画面の点線で表示されているマス目を「グリッド」といい、グリッドは手書きで図面を書くときの方眼紙の役割をします。


このグリッドやデータを利用して、マウスで正確な位置をつかむ（ピックする）機能を「ピックモード」といいます。

ピックモードには「グリッドピック」「要素ピック」「フリー」があり、目的に応じてON/OFFを切り替えます。

グリッド分割
 ● グリッドピック
 ● 要素ピック

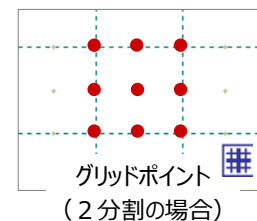


グリッドピック


ON  のとき、グリッド（マス目の交点）をピックすることができます。

また、グリッド分割で指定した分割数によってできた点もピックすることができます。

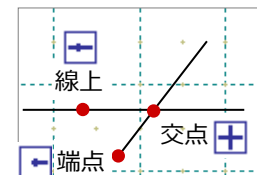
グリッドと分割数によってできる点を「グリッドポイント」といいます。



要素ピック

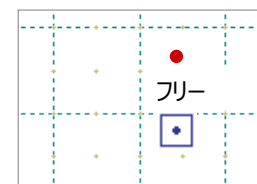
ON  のとき、入力点や基準点の位置が自動判断され、検索範囲内にある要素のポイント（交点・端点・線上）をピックすることができます。

どのモード（交点・端点・線上）でピックしようとしているかは、マウスカーソルに表示されているマークで判断することができます。



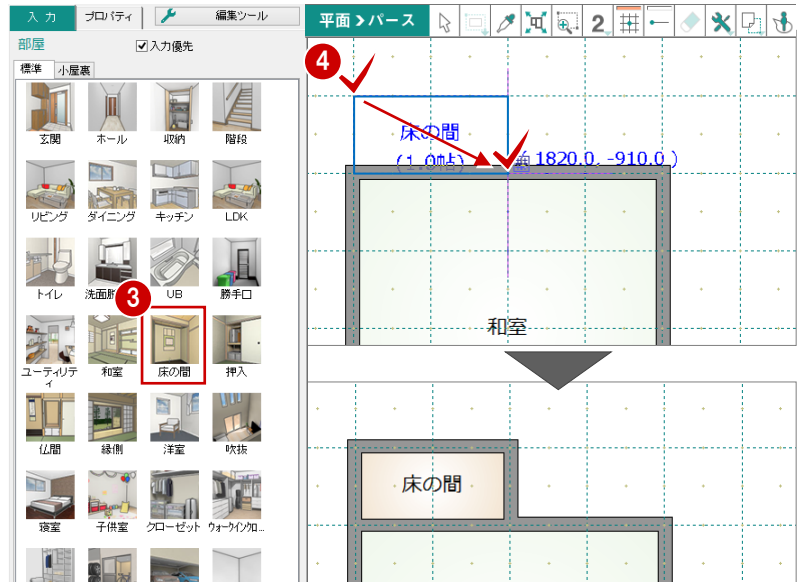
フリー

「グリッドピック」「要素ピック」が共にOFF   のとき、ピックモードは「フリー」となり、画面上の任意の位置をピックすることができます。



③ 「床の間」を選択します。

④ 矩形の始点と対角点をクリックします。



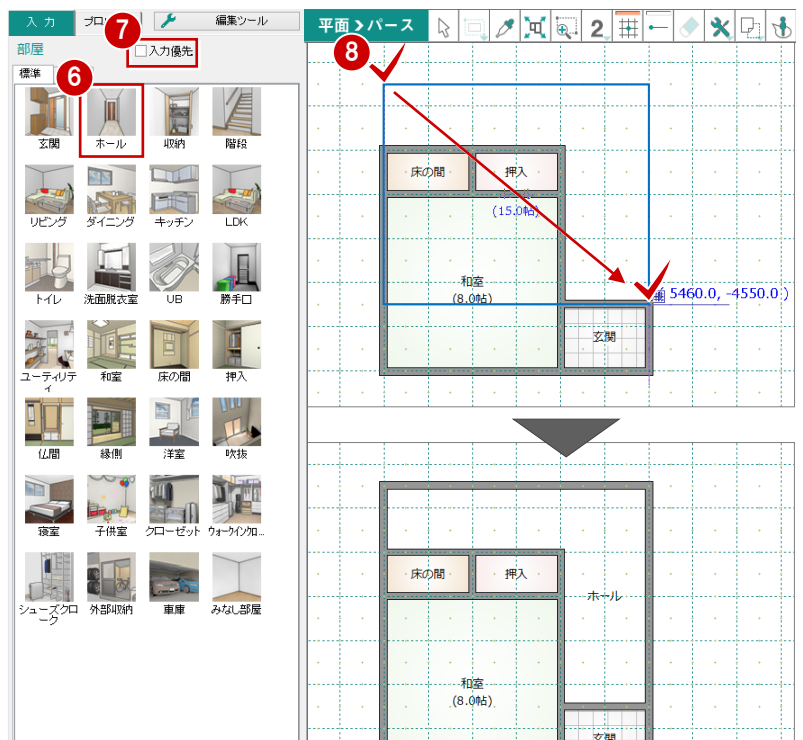
⑤ 同様に、「押入」を選択して床の間の隣に入れます。



⑥ 「ホール」を選択します。

⑦ 「入力優先」が OFF であることを確認します。

⑧ 矩形の始点と対角点をクリックします。



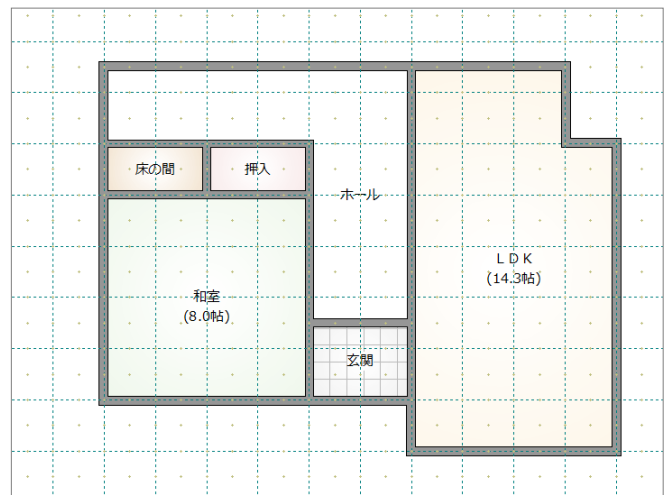
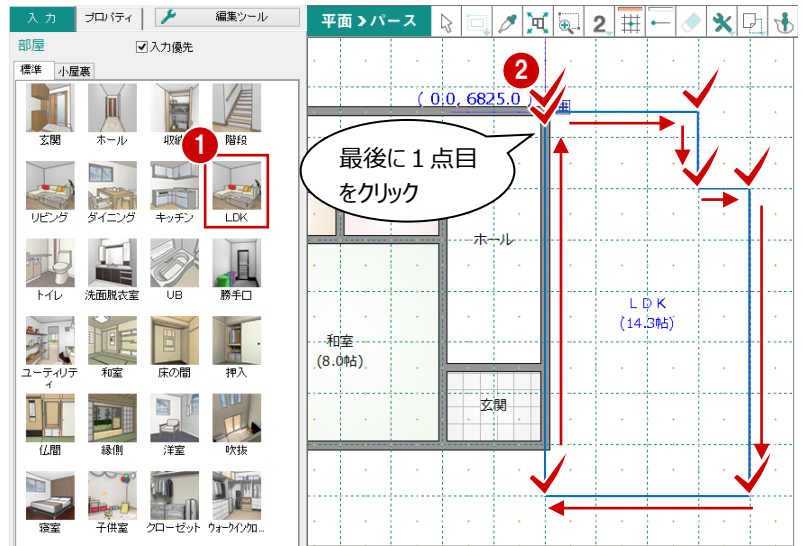
入力優先とは

ホールや廊下を選ぶと「入力優先」がOFFになります。

- ・入力優先がOFFの場合、部屋同士が重なる範囲は先に入力されている部屋が優先されます。
- ・入力優先がONの場合、部屋同士が重なる範囲は後から入力した部屋が優先されます。

多角形の部屋を入力する

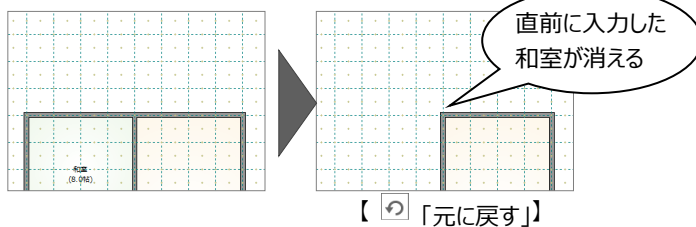
- ① 「LDK」を選択します。
- ② 部屋の始点をクリックし、水平もしくは垂直の位置に2点目をクリックすると、多角形入力になります。
部屋のコーナーを順にクリックし、最後に開始点（1点目）と同じ位置をクリックします。



入力を間違えた場合には

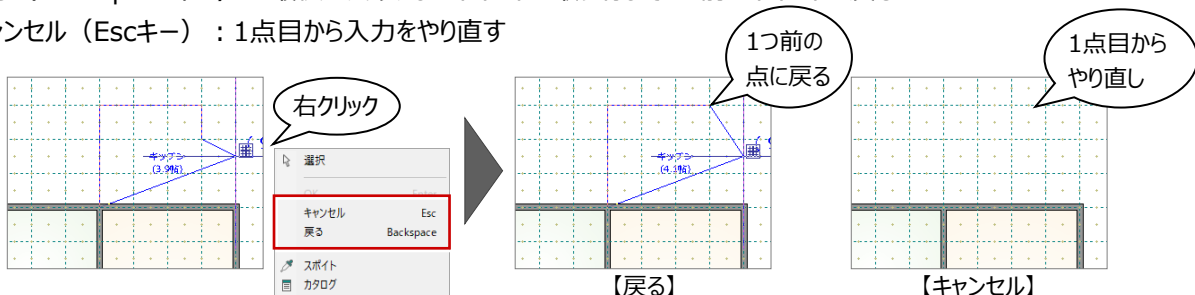
入力した部屋の位置やサイズを間違えた場合は、「元に戻す」「やり直す」をクリックすると直前に行った操作が取り消されます。

- 「元に戻す」は連続して10回前まで操作を戻すことができます。
- 「元に戻す」で行った操作をやり直すには、 「やり直す」をクリックします。



入力の途中でクリックする位置を間違えた場合は、マウスを右クリックして「戻る」または「キャンセル」を選びます。

- ・戻る（Backspaceキー）：最後にクリックしたポイントを取り消して1つ前のポイントに戻る
- ・キャンセル（Escキー）：1点目から入力をやり直す

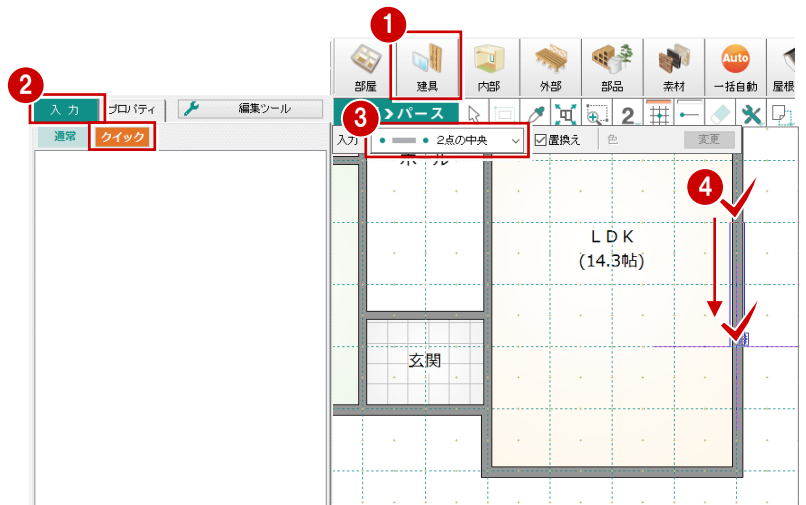


3-3 建具の入力

ここでは、クイック建具を使って外部に建具を入力してみましょ。

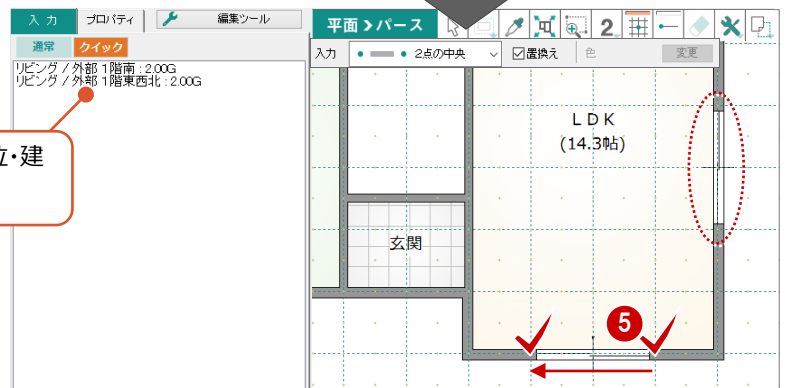
クイック建具入力では、入力する部屋と指定する2点間の距離から建具を自動判定して配置します。

- ① 「建具」をクリックします。
- ② 「入力」タブで「クイック」をON にします。
- ③ 入力モードが「2点の中央」であることを確認します。
- ④ 入力したい建具の開口幅をクリックすると、自動的に建具が配置されます。

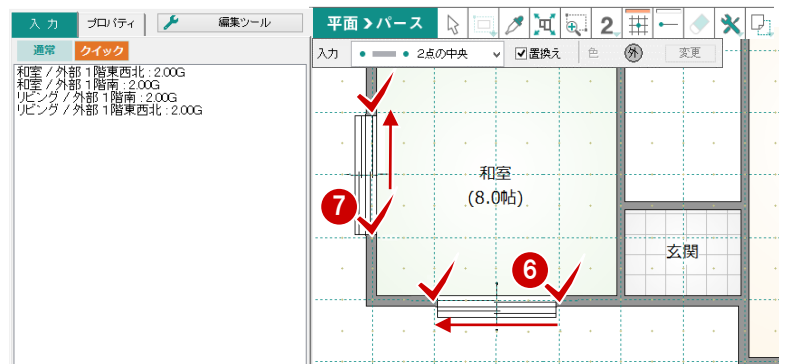


- ⑤ 同様に、LDK に建具を入力します。

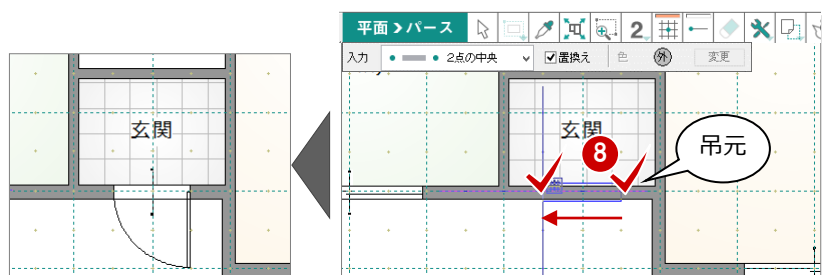
入力した建具の履歴（部屋・方位・建具幅）が表示されます。



- ⑥⑦ 和室に建具を入力します。



- ⑧ 玄関に建具を入力します。
ドアが配置されるので、1点目は吊元、2点目は開口幅をクリックします。



4

データの選択と編集

4-1 データの選択

入力されているデータを編集するにはデータを選択する必要があります。

ここではデータの選択方法を解説します。

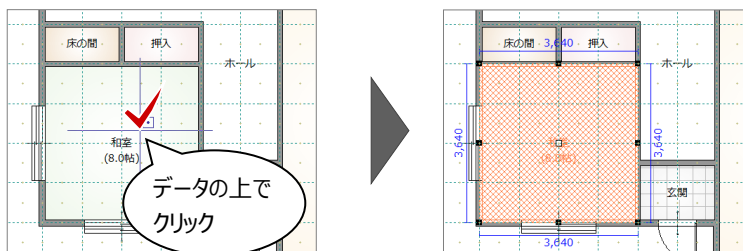
データを選択する

ツールバーの「対象データ選択」をクリックすると「選択タイプ」が有効になり、データを選択できる状態になります。



■データの上でクリックする

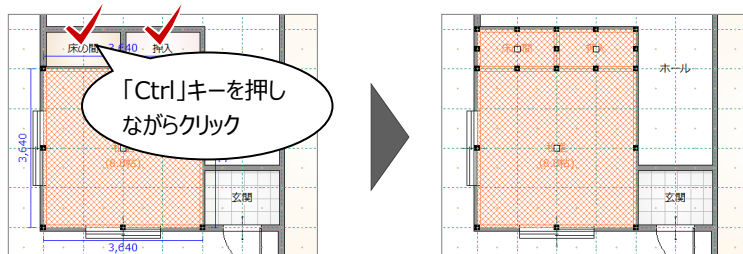
データの上でクリックすると、指定したデータが選択されます。



■データの選択を追加する

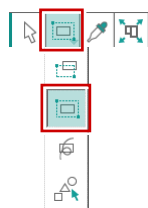
Ctrl キーを押しながらデータを選択すると、既に選択されているデータに追加できます。

※ データを選択している状態で、ツールバーの「対象データ選択」をクリック、またはポップアップメニューの「選択」、または Esc キーを押すと選択状態を解除できます。



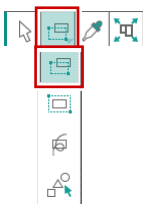
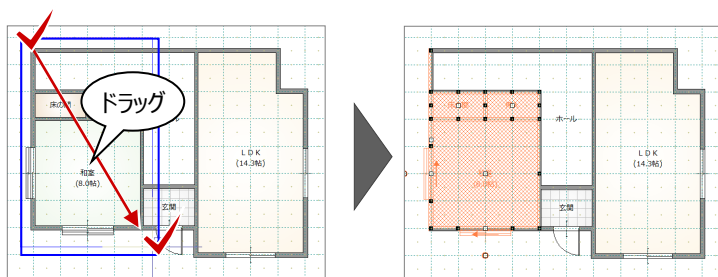
データの選択方法について

データの選択方法は、「選択タイプ」のメニューで切り替えることができ、「選択タイプ」には「ボックスイン選択」「ボックスタッチ選択」「フリーハンド選択」の3通りのタイプがあります。



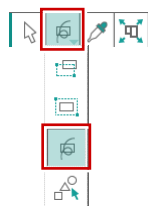
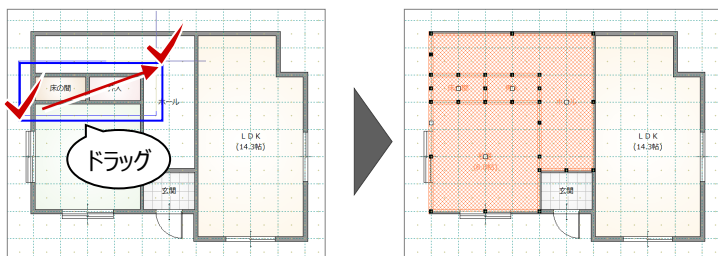
【ボックスイン選択】

マウスの左ボタンでドラッグすると、指定した矩形範囲に完全に含まれているデータが選択されます。



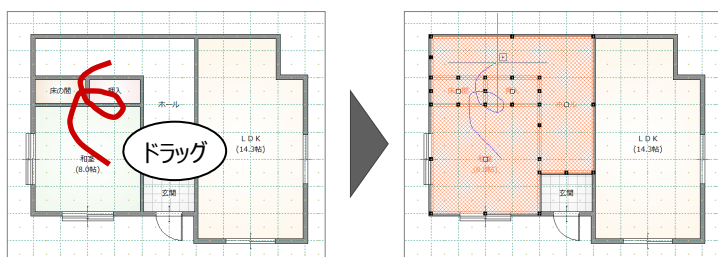
【ボックスタッチ選択】

マウスの左ボタンでドラッグすると、指定した矩形範囲にふれている、または含まれているデータが選択されます。



【フリーハンド選択】

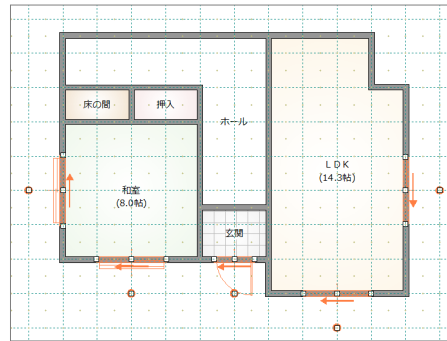
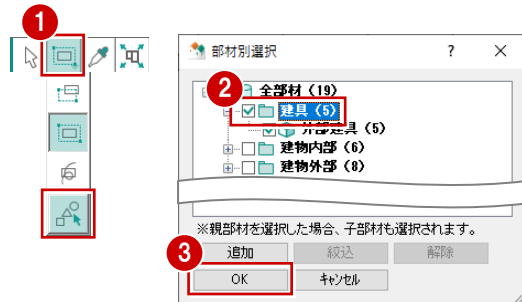
マウスの左ボタンでドラッグすると、なぞったデータが選択されます。



部位ごとに選択する

全データの中から、部材種別を指定して選択することができます。

- 1 「選択タイプ」メニューから「部材別選択」を選びます。
- 2 「部材別選択」ダイアログで、目的の部材を指定します。
- 3 「OK」をクリックします。



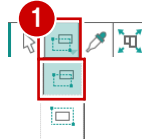
補足

選択データから種別を絞り込んで選択するには

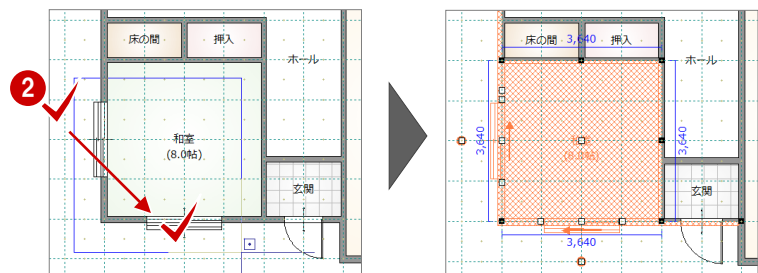
複数の選択データから種別を絞り込んで選択することができます。

ここでは、部屋、建具、外壁などの複数データが選択されている状態から建具だけを選択します。

- 1 「選択タイプ」メニューから「ボックスタッチ選択」を選びます。



- 2 和室の建具がすべて選ばれるように、ドラッグして範囲を指定します。



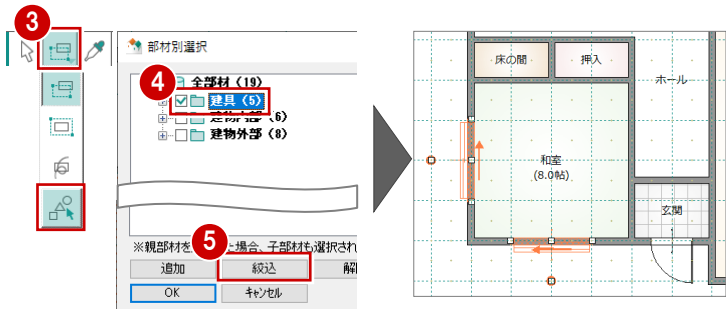
- 3 「選択タイプ」メニューから「部材別選択」を選びます。



- 4 「部材別選択」ダイアログで「建具」をONにします。

- 5 「絞込」をクリックします。

指定した範囲内の建具のみ選択できていることが確認できます。



4-2 データの編集

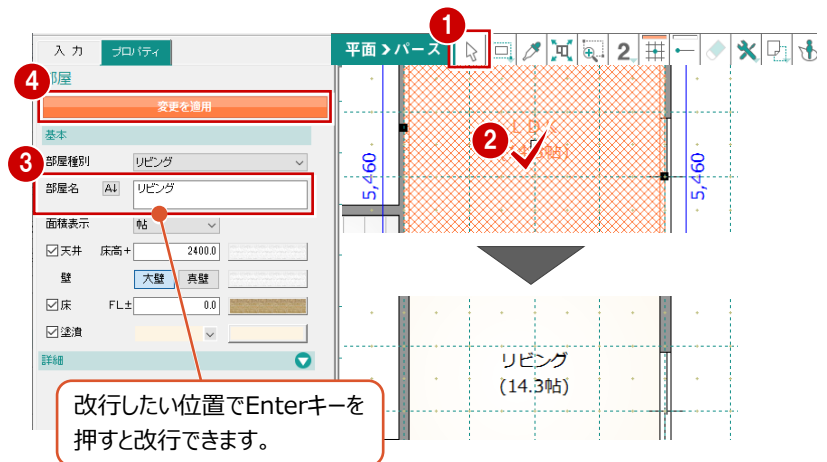
次に、データのプロパティの変更、移動や変形、削除といった編集方法について確認してみましょう。

データを選択すると、選択されたデータの中心と外周に「ハンドル」(■または□)が表示されます。移動・変形(サイズを変更)は、このハンドルをドラッグしておこないます。

プロパティを変更する

入力した部屋の名称を変更するには、「プロパティ」タブでおこないます。

- 1 「対象データ選択」をクリックします。
- 2 名称を変更したい部屋(ここではLDK)を選択します。
- 3 「プロパティ」タブの「部屋名」を「リビング」に変更します。
- 4 「変更を適用」をクリックすると、部屋名の変更が図面に反映されます。



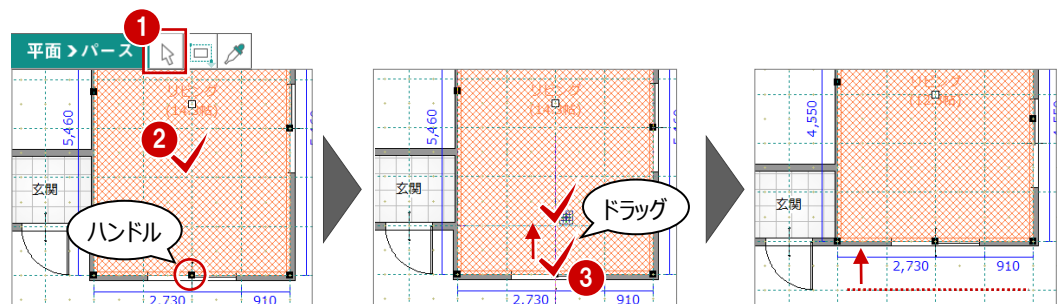
ハンドルを使う

データを選択すると、選択したデータの中心と周囲にハンドルが表示されます。このハンドルを移動することで、領域変形などの編集ができます。

■ 領域を変形する

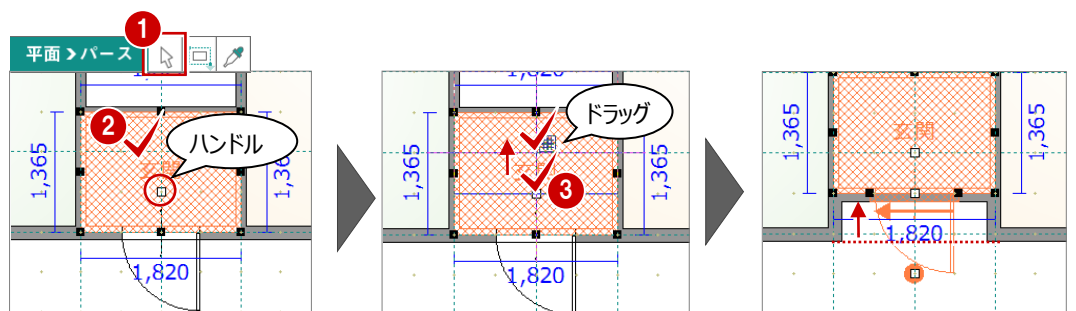
部屋などの領域のデータは、端部のハンドルをクリックして移動先を指定すると変形できます。

- 1 「対象データ選択」をクリックします。
- 2 領域を変形する部屋を選択します。
- 3 ハンドルを変形したい位置までドラッグします。

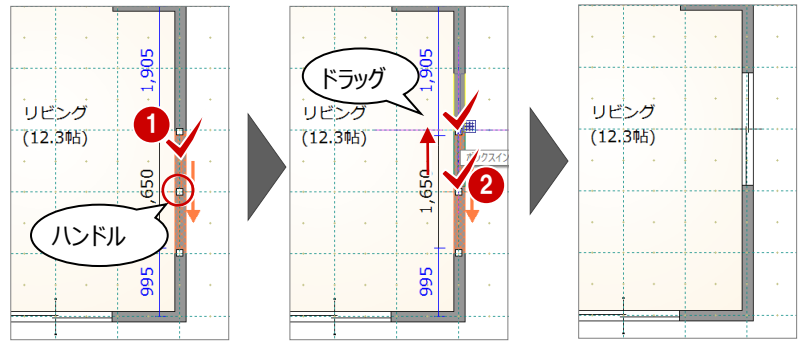


■ 移動する

部屋などの領域のデータは、データを選択して中央のハンドルを移動先までドラッグすると、領域の大きさを変えずに移動できます。

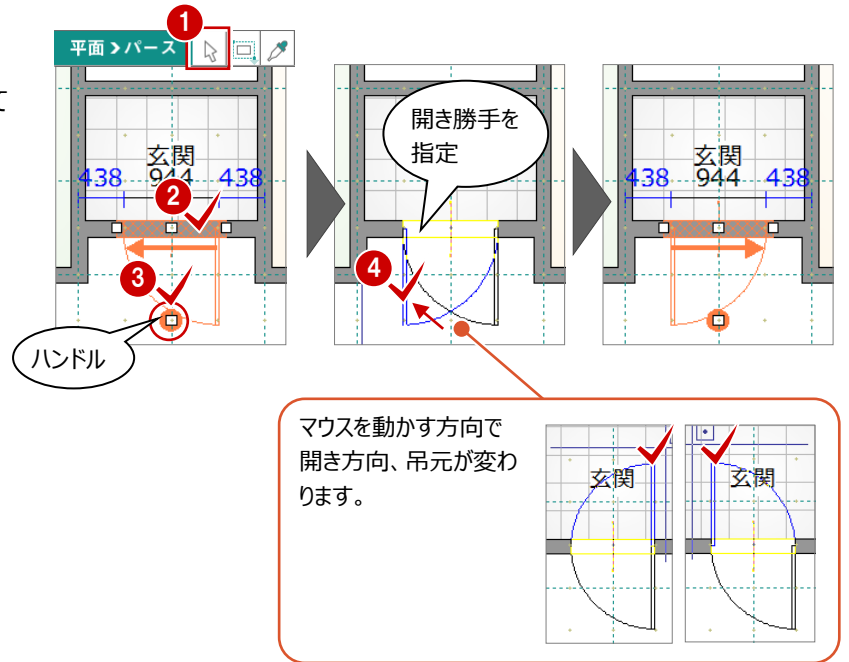


同様に、建具の配置位置もハンドルをドラッグすることで移動できます。



■ 建具の開き勝手を変更する

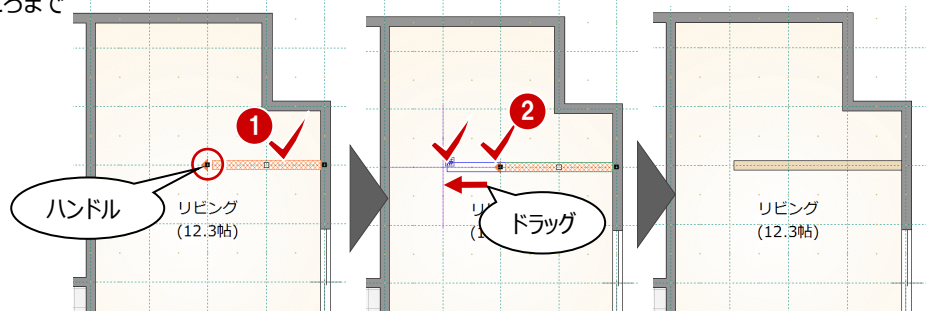
開き戸や引き戸、縦すべりは、ハンドルをクリックして方向を指定すると、開き勝手を変更できます。



補足 + ハンドルを使って伸縮や回転するには

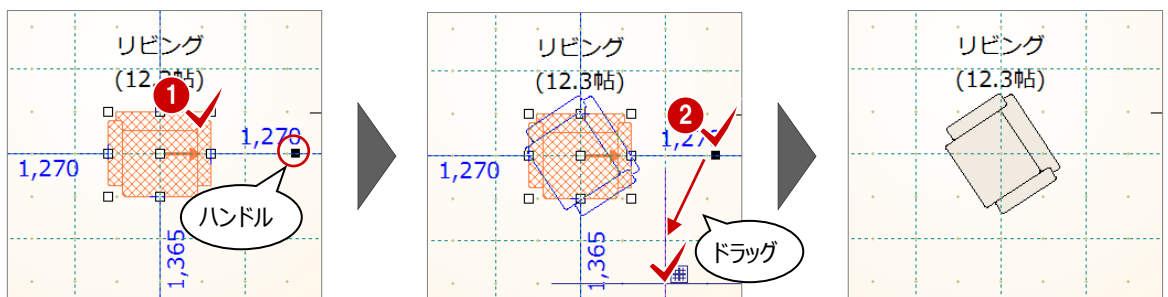
■ 袖壁などを伸縮する

部材を選択し、ハンドルを伸縮したいところまでドラッグすると、長さを変更できます。



■ 部品を回転する

部品などは、ハンドルをドラッグして回転する方向を指定すると回転できます。

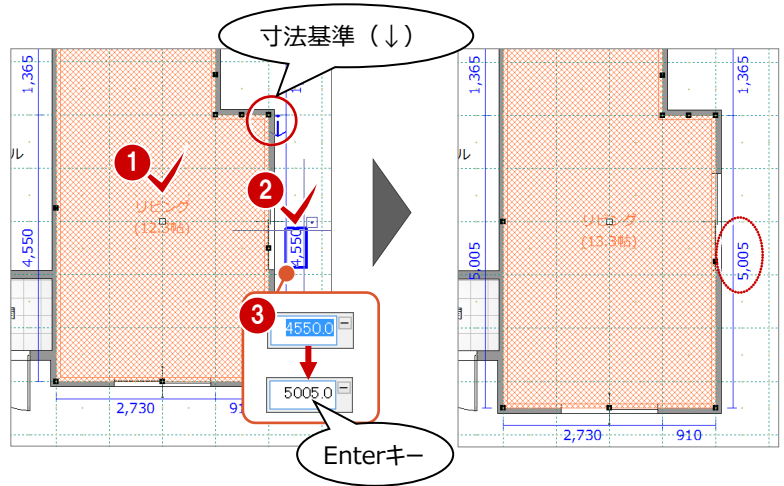


寸法エディットを使う

データを選択して表示される寸法値を直接変更して、サイズ変更や移動などの編集ができます。

■サイズを変更する（部屋）

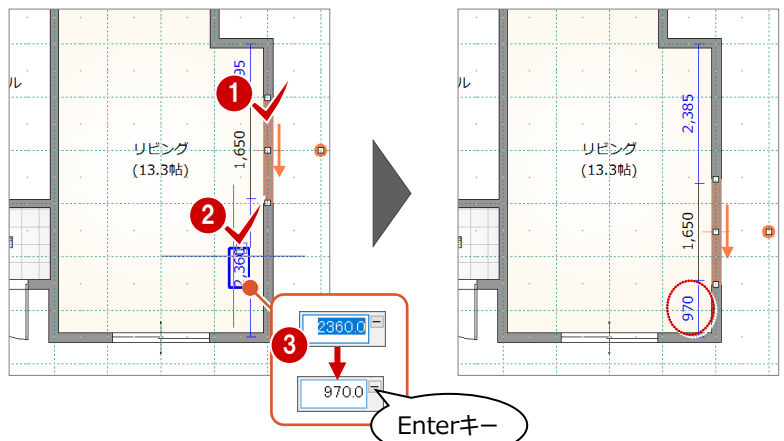
- 1 部屋を選択します。
- 2 寸法値を囲む□の枠内でマウスの位置を動かすと、寸法変更の基準を示す矢印の向きが替わります。基準を確認しながら寸法値をクリックします。
- 3 寸法を入力して Enter キーを押します。サイズが変更されます。



■移動する

建具や部品は、部屋線からの離れの寸法値を変更することで、指定した距離まで移動できます。

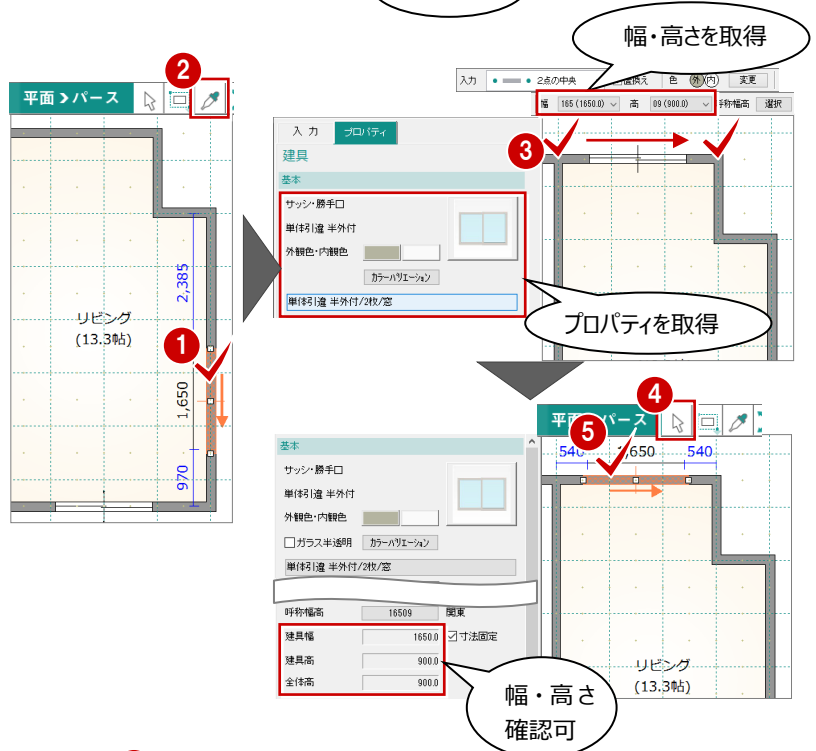
- ※ 選択する部材によって寸法の基準が異なります。



スポイトを使う

入力済みの部材を選択して「スポイト」をクリックすると、同じプロパティの部材を入力できる状態になります。

- ※ 「スポイト」をクリックしてからデータを選択しても構いません。
- ※ スポイト対象外のデータもあります。また、部材によって一部取得されないプロパティもあります。



データを削除する

入力した建具は、削除しておきましょう。

- 1 「対象データ選択」をクリックします。
- 2 削除する建具を選択します。
- 3 右クリックして、ポップアップメニューから「削除」を選びます。



5

屋根・建具の自動配置

間取りが入力できたら、間取りに合わせて屋根や外装、内部建具など自動配置しましょう。

屋根・建具などを自動配置する

① 「一括自動」をクリックします。

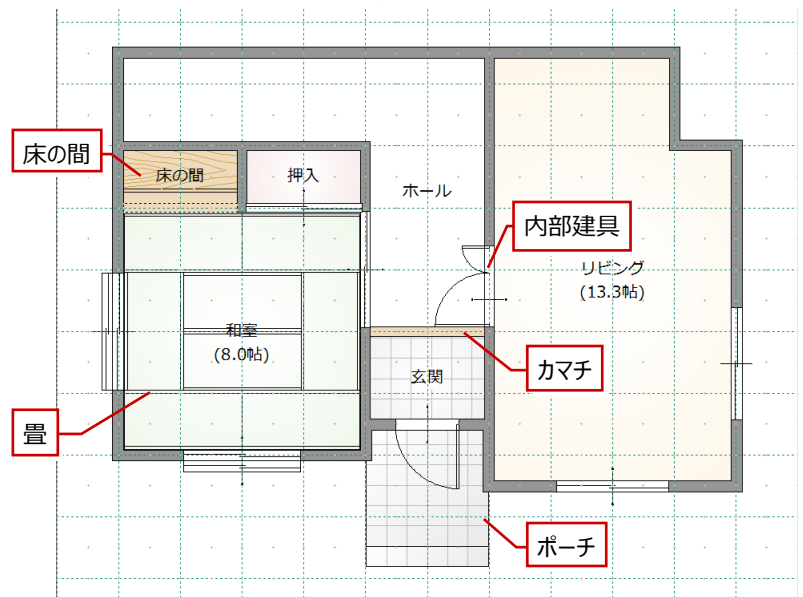


② ここでは、「内部建具」「内部開口」が ON であることを確認します。
他の項目は確認のみします。



③ 「OK」をクリックします。

屋根、内部建具、ポーチなどが配置されます。



6

立体データの確認

6-1 外観の確認

自動配置が終了したら、パース画面に切り替えて建物の立体を確認してみましょう。

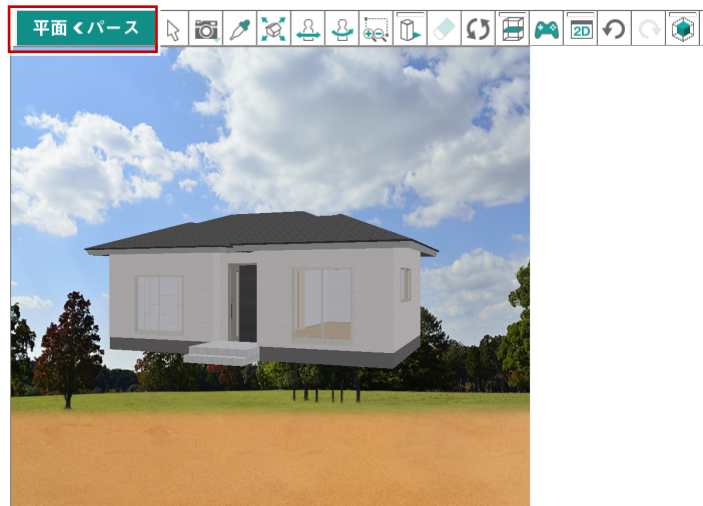
画面を切り替える

「平面／立体の切り替え」をクリックして、パース画面に表示を切り替えます。

パース画面の背景変更

以降の操作では、パース画面の背景を次のように変更して解説しています。

⇒ 背景の変更については、「プラン作成編」P.2 参照



パース画面での操作

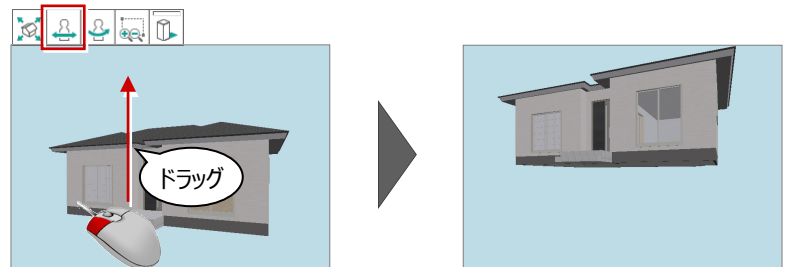
ツールバーのコマンドと、マウス操作による視点変更の操作を確認しましょう。



■ 視点を移動する

ツールバーの「視点移動」をクリックして、マウスの左ボタンで任意の方向にドラッグします。指定した方向に立体が移動します。

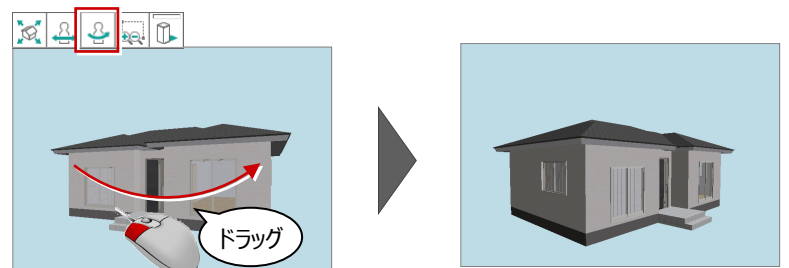
※ マウスのホイールボタンをドラッグしても視点を移動できます。



■ 視点を回転する

ツールバーの「視点回転」をクリックして、マウスの左ボタンで任意の方向にドラッグします。指定した方向に立体が回転します。

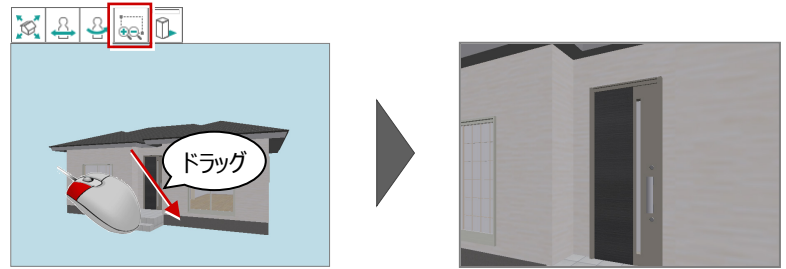
※ マウスの右ボタンをドラッグしても視点を回転できます。



■ 拡大・縮小する

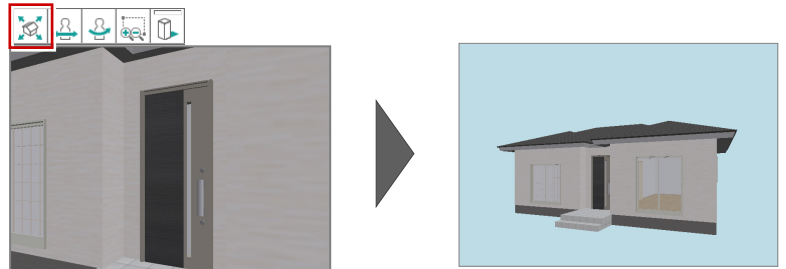
ツールバーの「範囲拡大縮小」をクリックして、右上方向または右下方向に左ボタンで拡大したい範囲をドラッグします。指定した範囲の立体が拡大表示されます。

反対に、左上方向または左下方向にドラッグすると立体が縮小表示されます。



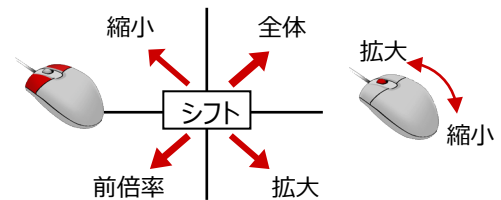
■ 全体を表示する

ツールバーの「フィット表示」をクリックすると、建物全体や選択したデータを画面いっぱいに表示します。



両ボタンドラッグによる操作

平面表示と同様に、マウスの両ボタンドラッグを使用しても、パース画面の拡大・縮小などをおこなうことができます。



視点関連コマンドによる操作

「視点関連コマンド」をクリックすると、入力パネルから見たい方向のカメラの視点に切り替えることができます。サムネイルをクリックして登録されている視点に切り替えます。

「視点関連コマンド」を右クリックすると、メニューから見たい方向のカメラの視点に切り替えることができます。

HOMEに設定されているユーザーカメラの視点、もしくはパースを開いたときの初期視点に切り替えます。

システムカメラ/ユーザーカメラを切り替えます。

サムネイルをクリックして登録されている視点に切り替えます。

視点の追加・編集をおこないます。

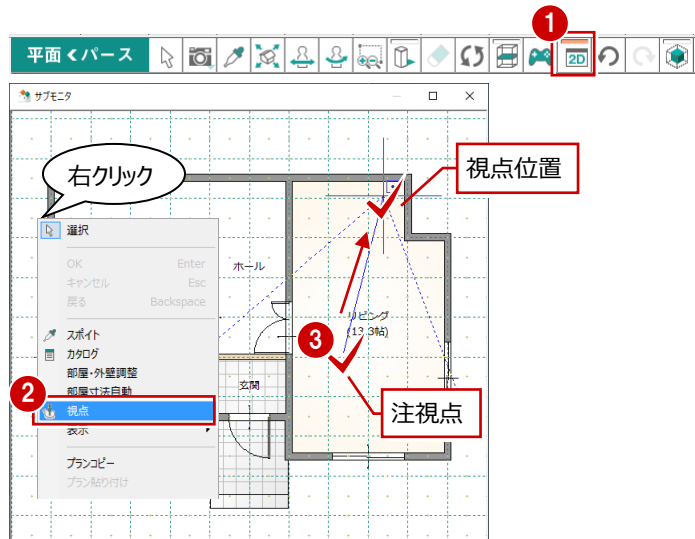
クリックした方向からの視点でパースを表示します。

6-2 内観の確認

マウス操作で視点を変更して、内観を確認しておきましょう。

サブモニタから視点を設定する

- 1 「モニター表示／非表示」をクリックして、サブモニタに平面を表示します。
- 2 サブモニタで右クリックして、ポップアップメニューから「視点」を選びます。
- 3 1点目（注視点）、2点目（視点位置）を順にクリックします。



メイン画面が平面表示の場合

2Dツールバーの「立体での視点を平面で指定」で視点を設定します。平面上で視点を設定すると、サブモニタでパースを確認することができます。

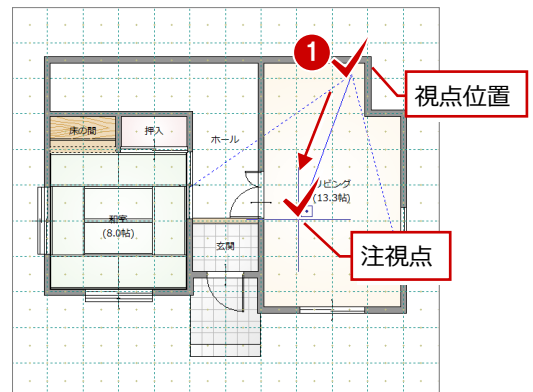
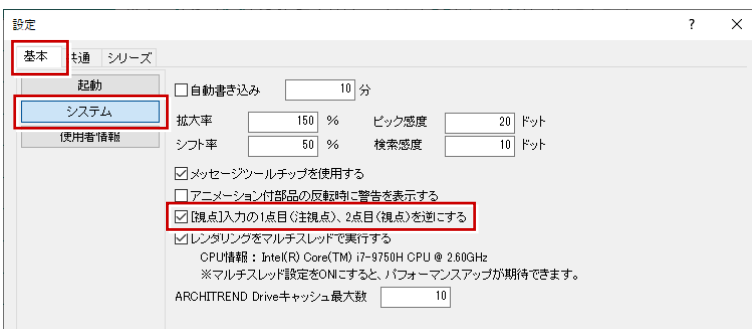


補足

注視点と視点方向の指定を逆にするには

1点目（視点位置）、2点目（注視点）の順で視点を設定したいときは、共通ツールバーの「初期設定」をクリックして、「基本」タブの「システム」にある「視点」入力の1点目（注視点）、2点目（視点位置）を逆にするをONにします。

※ 設定を有効にするには、Modelioを再起動する必要があります。



【ONの場合】

7

プランの保存とプログラムの終了

プランが作成できたらデータを保存して、Modelioを終了しましょう。

データを保存する

- 1 共通ツールバーの「上書き保存」を選びます。
- 2 プラン名を確認します。
ここでは、プラン名が「練習プラン」であることを確認します。
- 3 「保存」をクリックします。
ファイルが保存されます。



Modelio を終了する

- 1 Modelio 画面右上の「閉じる」をクリックします。



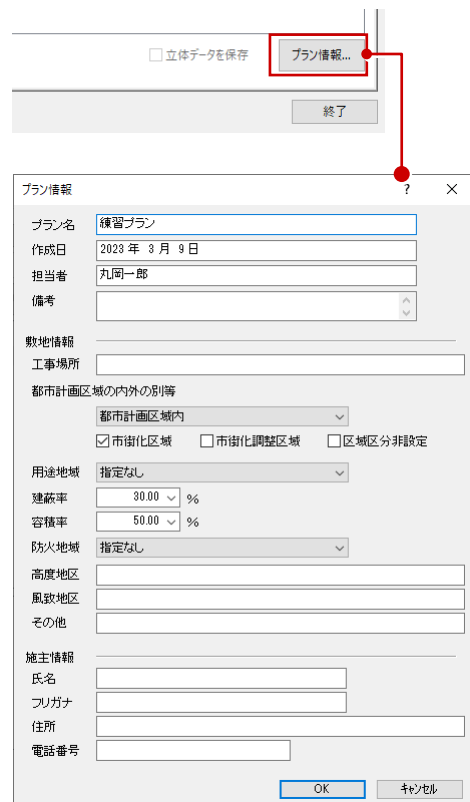
他のプランを開くには

プラン名をクリックして、「開く」ダイアログでプランを変更します。



プラン情報を変更するには

「開く」ダイアログで「プラン情報」をクリックして、プラン名や敷地情報などを変更します。



プランデータのエクスポート・インポート

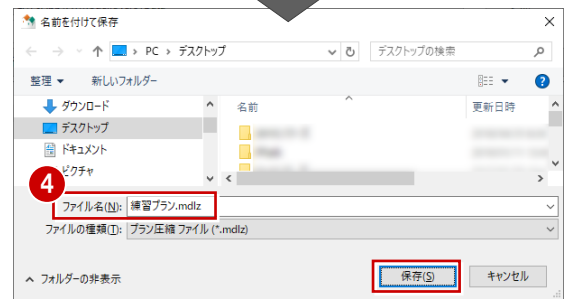
作成したプランデータをバックアップしたいとき、また他のPCでも使用したいときは、プランデータをエクスポートします。ここでは、圧縮ファイル (*.mdlz) のエクスポート、インポートを行っていきましょう。

エクスポートする

- 1 「処理メニュー」をクリックして「開く」を選びます。
- 2 出力するプランを選びます。
- 3 「エクスポート」メニューから「圧縮データの書き出し」を選びます。



- 4 ファイル名を設定して「保存」をクリックします。
- 5 確認画面で「はい」をクリックします。
- 6 確認画面で「OK」をクリックします。

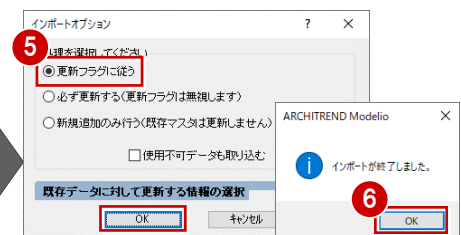
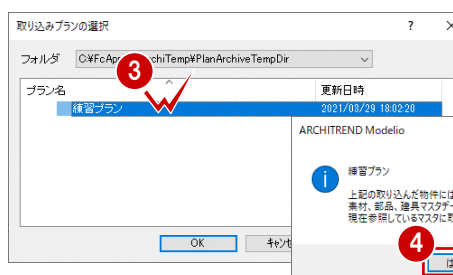
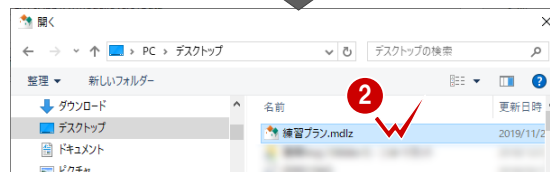


マスタデータの出力

マスタデータも出力するとファイルサイズは大きくなりますが、マスタも同時に出すことをお勧めします。ファイルを受け取る側に同じマスタが存在しない場合、受け取り側でプロパティの変更などでエラーが表示されてしまいます。なお、マスタ込みのファイルをインポートする際は、マスタを取り込むかどうか選択することができます。

インポートする

- 1 「開く」ダイアログの「インポート」メニューから「圧縮データの取り込み」を選びます。
- 2 取り込む圧縮ファイルをダブルクリックします。
- 3 取り込むプランをダブルクリックします。
- 4 マスタが出力されている場合、確認画面で「はい」をクリックします。
- 5 「インポートオプション」ダイアログで、「更新フラグに従う」が ON であることを確認して「OK」をクリックします。
- 6 確認画面で「OK」をクリックします。



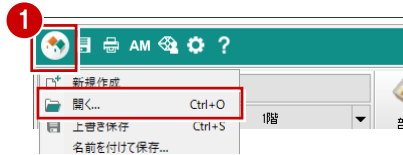
ARCHITREND Drive (ATDrive) とは

ARCHITREND Drive (ATDrive) とは、弊社製のクラウドストレージです。ARCHITREND ZERO、Modelio、まどろち等の物件データや各ファイルをクラウド上で保管や管理、各CADから閲覧や編集をおこなうことができます。また、弊社CADユーザーでない場合でも、ファイルをインターネットでやりとりすることができます。

※ ATDriveについては、Modelioヘルプの目次「処理メニュー」の「プランを開く／名前を付けて保存 - ATDriveタブ」を参照

プランを新規作成する

- 1 「処理メニュー」をクリックして、「開く」を選びます。Modelio 起動時には自動で表示されます。
- 2 「開く」ダイアログで「ATDrive」タブをクリックします。
- 3 「新規」をクリックしてプランを作成します。



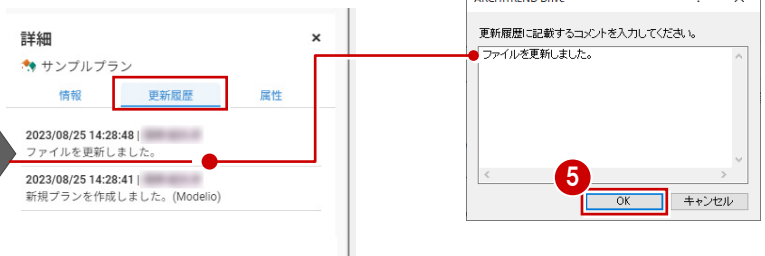
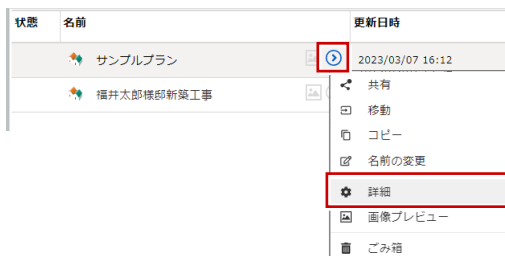
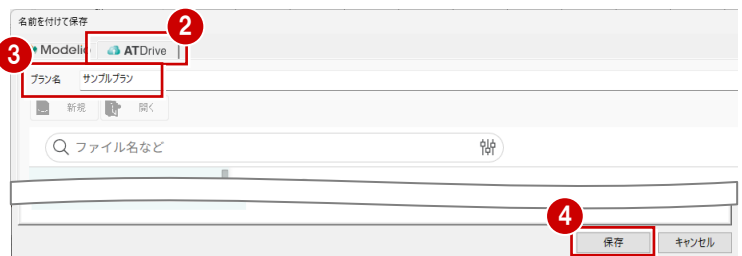
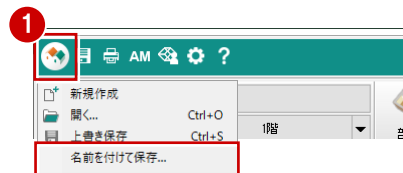
ATDrive を使用するには

ATDrive上のデータを編集・保存するには、3Dカタログ.comのBプランのご契約が必要です。ATDriveの使用ユーザーのタイプによって権限が変わります。詳しくは、3Dカタログ.comヘルプの「目次:ATDrive - ARCHITREND Drive」の「共通機能」を参照ください。

名前を付けて保存する

- 1 「処理メニュー」をクリックして、「名前を付けて保存」を選びます。
- 2 「名前を付けて保存」ダイアログで「ATDrive」タブをクリックします。
- 3 4 プラン名を設定して「保存」をクリックします。
- 5 更新履歴に記載するコメントを入力して「OK」をクリックします。

※ 入力したコメントは、プラン名称の ⓘ をクリックして表示されたメニューの「詳細」で確認することができます。



作成したプランを開く

- 1 「開く」ダイアログで「ATDrive」タブをクリックします。
- 2 3 プランを選択して「開く」をクリック、もしくはダブルクリックしてプランを開きます。

